

# サポクラ 通信

令和6年(2024年)1月号

今月の内容は...

- ・ゾウ舎を利用する生き物たち .....1
- ・エゾシカの紹介と角について .....4
- ・主の帰還「オランウータンとボルネオの森」へ .....8

## ～ゾウ舎を利用する生き物たち～

サポクラ会員の皆様、こんにちは！いつもご支援ありがとうございます。

アライグマ、リスザル、ニワトリ担当の相田です。10月に担当替えがあり、アジアゾウ担当から現在の担当になりました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

ゾウ舎が完成して5年が経過しましたが、だんだんと施設が環境になじみ、様々な生き物たちがゾウ舎を利用するようになってきました。今回はその一部を紹介させていただきます。

雪が解けて暖くなるとゾウ舎の屋外プールに水を溜めます。大体、週に1回ほどプール清掃を行っていますが、ある時こんなものが壁についていました。



これはエゾサンショウウオという両生類の卵です。

毎年動物園の森で産卵が行われていますが、まさかゾウのプールに産卵するとは思ってもみなかったのが驚きました。

ちなみにこちらはエゾアカガエルの卵です。エゾアカガエルは毎年プールに産卵しています。



これらの卵は回収して動物園の森ピオトープまで運んでいます。

つづいてこちら。

屋外放飼場の地面にいくつも穴があります。これ、なんだかわかりますか？



実はアリジゴクの巣なんです。

アリジゴクとはウスバカゲロウの幼虫で、一般的には山道脇の木の根元や神社の境内の下などの細かい砂があるところに巣をつくります。

ゾウ舎の床材で使用している資材も細かい砂ですのでアリジゴクが巣をつくるのにぴったりの場所だったのかもしれませんが。

中を少し掘り返してみるとこのような幼虫がいます。すり鉢状の穴に落ちてきたアリなどの虫を大あごで捕らえて体液を吸います。残念ながら羽化は夜間に行うことが多いため、羽化している様子は観察できていません。



3つ目はハクセキレイという野鳥です。

円山にはクマガラなど希少な種も生息しており、様々な野鳥を観察することができます。ハクセキレイはどちらかというごく普通に見られる野鳥です。この鳥は昆虫やクモなどを主な食物としており、暖かい季節にはゾウの糞に集まる大量のハエやプールに集まるアメンボやトンボを狙って放飼場を飛び回っています。

また、私が最も驚いたことがゾウ舎の油圧扉の隙間に巣をつくっていたことです。

これが巣と雛の写真です。頻繁に雌雄が出入りしていたため、もしや、と思い覗いてみると営巣していました。天敵であるカラスはゾウが追い払ってくれますし、糞に大量のハエも集まるのでエサに困らない安全な場所だと判断したのだと思います。



しばらくすると雛の巣立ちも確認できました。

これらの他にも以下のような種が現れたこともありました。



マダラコウラナメクジ  
(外来種)



アカアシクワガタ



キアゲハ



ムネアカオオアリ  
(冬眠中)

今回紹介した生き物はごく一部です。動物園にはたくさんの生き物が暮らしていますので、動物園へお越しの際はぜひ、野生動物も探してみてください。



## エゾシカの紹介と角について



円山動物園サポートクラブのみなさま、いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。  
今年度よりエゾシカを担当している池田智亮です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。  
今回は円山動物園で暮らしているエゾシカの個体紹介と、特徴的な角についてご紹介します。

### 「エゾシカ・オオカミ舎ではオス1頭メス3頭が暮らしています！」

～誰よりも食欲旺盛な最年長～

芽(メス)／20歳

4頭の中で一番小柄な体格なので、よく来園者の方からは「子どもかな？」や「バンビかわいいね♪」と言われる芽ですが、最年長のメスです。長生きの秘訣はたくさん食べる事なのかとっても食欲旺盛で、餌を持っているといち早く察知してやってきます。



～唯一のオス～

恩(オス)／15歳

名前の読み方は「めぐむ」です。オスだけに生える角と母親の芽に似て目がクリクリしているのが特徴です。芽が小柄なので恩もエゾシカの中では割と小柄なオスですが、他のメスに比べると体が一番大きく、餌の時間はいつも一番いいポジションをキープしています。食べるのが大好きなのも母親譲りです。



～好奇心旺盛！だけど慎重派～

アマダ(メス)／13歳

作業中に何か視線を感じるな？と思ったらよくアマダがこちらの方を見つめています。とても好奇心旺盛で飼育員が何をしているのかが気になるようで、最近は除雪機の後ろをついて来ます。でもこちらから近づこうとすると立ち止まって様子を伺う慎重な部分もあります。



～とってもマイペース～

コマチ(メス)／12歳

4頭の中で最年少のコマチはとってもマイペースです。餌の時間が近くなると他の個体はエサ台の前などでソワソワし始めますが、コマチは「どうせ食べられるし…」と言わんばかりに奥の方で座って待っており、自分の時間を持ったのんびりとした性格をしています。



## 「角は毎年生え変わる！」

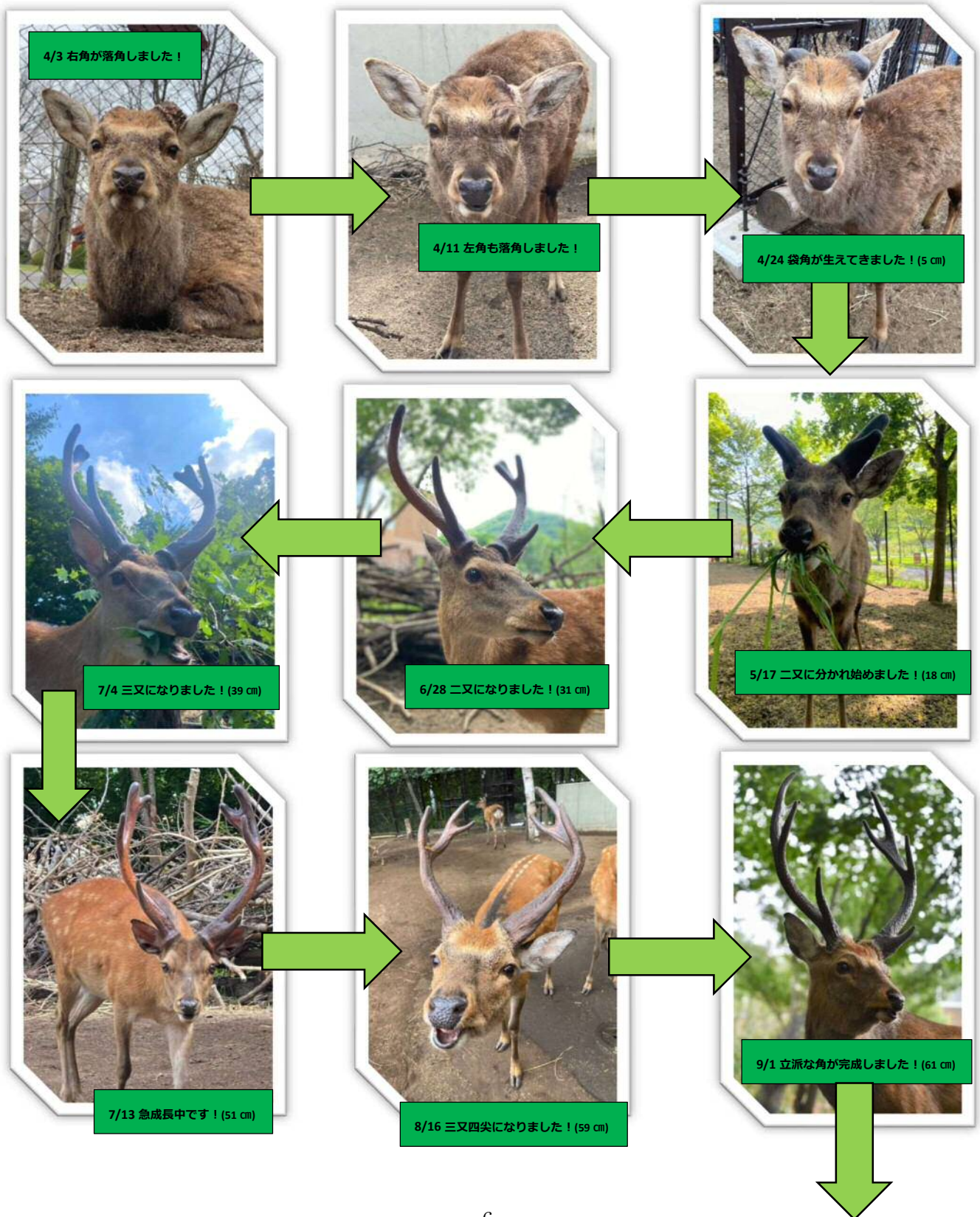
エゾシカの角はオスだけに生え、1年に1度毎年生え変わるのが特徴です。シカの仲間は世界に30数種類いますが、全てのシカが毎年生え変わっています。なぜ毎年生え変わるのか、はっきりとした理由はわかっていませんが、繁殖期のオス同士の争いで欠けたり折れたりすることがあったとしても翌年にはまた新たな立派な角で繁殖期を迎えることができます。エゾシカの角は最大で70cm程度にもなり、片角だけで1kg程に成長します。

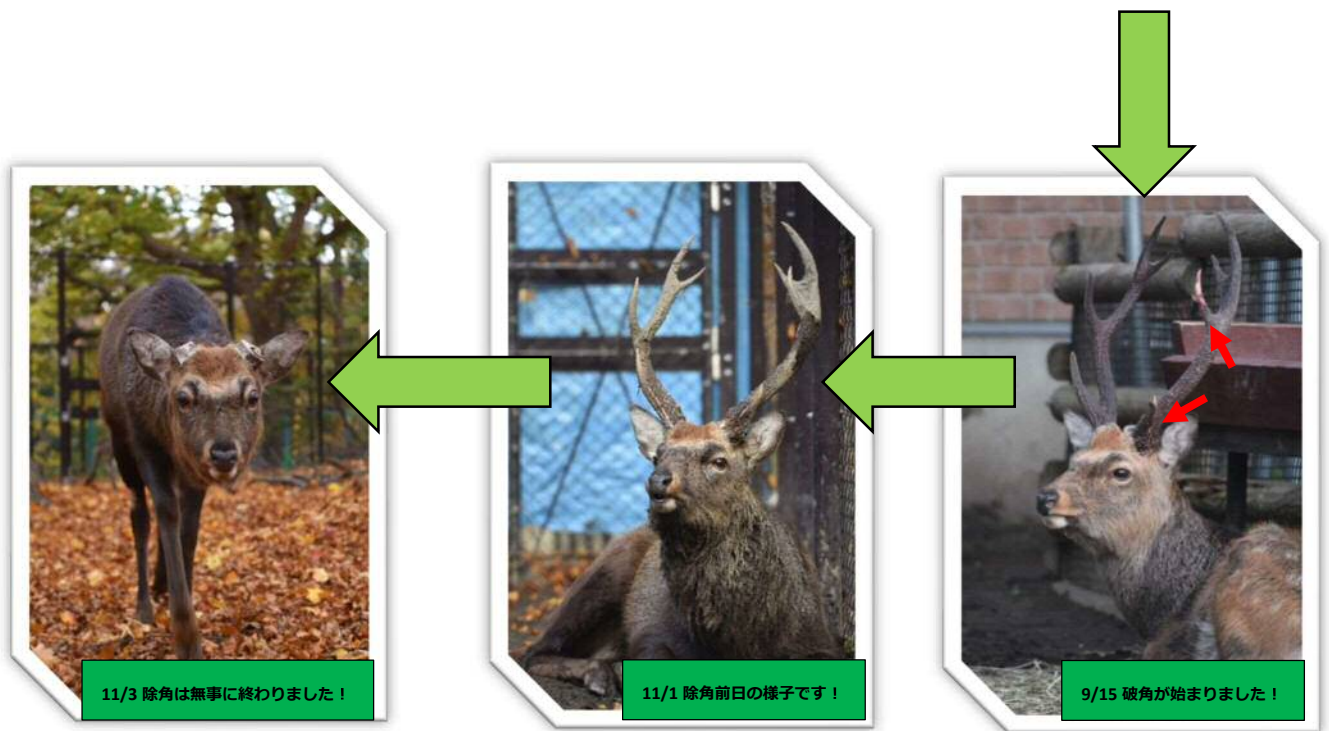
エゾシカの場合、春に「<sup>らっかく</sup>落角」と呼ばれる古い角が自然と落ち、そこから夏にかけては「<sup>ふくろづの</sup>袋角」と呼ばれ、角の表面を覆う皮膚の内側には血管が通っており、血液により角の成分にもなるカルシウムやタンパク質が運ばれて成長していきます。血が通っているため「<sup>ふくろづの</sup>袋角」は温かく意外と柔らかい角になります。夏の期間に急成長していき、その後成長が止まると血が引いて「<sup>はかく</sup>破角」と呼ばれる表面の皮膚が剥がれ白く硬い立派な「<sup>かれづの</sup>枯角」が秋の繁殖期に完成します。そして繁殖期が終わる冬からは「<sup>らっかく</sup>落角」へと向かい、これを毎年繰り返しています。

## 「恩の角成長記録！」

円山動物園では他のメス個体と飼育員の安全の為に、毎年「除角」と呼ばれる角切を行っています。今年度は2023年の11月2日に実施し、右角が58 cm 700g、左角が60 cm 800gでした。

2023年の4月から11月の除角までの恩の角の成長記録をまとめたのでぜひご覧ください。





### 「最後に・・・」

北海道の方にとっては身近な動物なので、興味を持たれにくいエゾシカですが、円山動物園で暮らしている個性豊かな4頭をきっかけに、この機会にエゾシカについて興味を持っていただけたら嬉しいです。恩の角は時期や季節ごとに形や大きさが異なるので、来園する度にぜひ観察してみてください。

まだまだ寒い日が続きますが、サポートクラブの皆様のご来園をお待ちしております。今後とも、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



# 主の帰還 「オランウータンとボルネオの森」へ

円山動物園サポートクラブの皆様、こんにちは。

新年最初となる飼育展示三担当係からのお便りでは、2021年から当園動物病院内の仮獣舎で過ごしていたボルネオオランウータンのレンボー・レイト母子が、新施設(屋内)と旧施設(屋外)が合体してできた「オランウータンとボルネオの森」に無事に戻ったことをご報告し、そこで過ごす様子をお伝えしたいと思います。

母親のレンボーは2009年に来園以来、仔のレイトは2020年に誕生以来、旧「類人猿館」で過ごしていました。

「新しいけど見覚えもある…」 新生活、スタートしています！

## いざ新施設へ

ついに待ちに待ったその時が訪れました。

12月20日朝8:00。



仮獣舎から新獣舎への引っ越しのために12月初めより開始した輸送檻への自主的な移動のトレーニング。

本番もいつもどおり。わかっているんです・・・本当にありがとう。

寒さをしのげる箱型のトラックに乗り、その道のりは5分。

輸送檻に入ってから新施設の居室に入るまでの時間は**30分**というこれ以上ないスムーズな動物移動が行われました。



バックヤードの居室サブパドック。

いつものように、部屋に入ってからすぐに構造チェックが始まります。今回はレイトが壁をトントン。

病院に移動した 2021 年は、

レンボーが室内を 1 時間くらいかけて入念に探索してから少しして、背中からそーっと離れてお母さんのまねっこ探索開始でした。

お母さんと全く同じルートを同じ順番で、一人で回ってお部屋をチェックしたのでした。壁を右手のこぶしでたたいた場所や回数まで完コピでした。

・・・今度は最初から一人でトントン！

すごいなあ。成長。。

やっぱりね！

ここからは写真をたくさんにします。新施設がオープンしてみなさまにオランウータンを見ていただくまでに、もう少し時間がかかりますので。

レンボーは新施設に入ったその日から自分のいるサブパドックよりその外をキョロキョロ。なにか見覚えがある・・・。

1 月 17 日。天気もよく最高気温が 4℃ ということで、屋外放飼場へ通じる扉を開けてみたのでした。

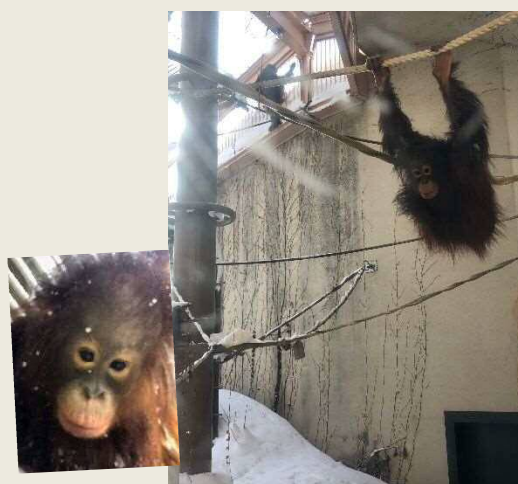


まずはレンボーが。

10 分後にいよいよレイトも。

・・・確信。

戻って、本当によかった。。



## ボルネオの森と・・・

新施設のことほんの少し。

施設名は「オランウータンとボルネオの森」  
ですので、森について。



花も咲きますし、実も付けます。

**植物の育成**はこの施設の根幹です。

育成環境の幅がせまい植物に適した環境を整えることにより、ここに暮らすオランウータンたちの動物福祉を良い状態にできると考えています。

この施設における植物は、「炭鉱のカナリア」ともいえるのです。

そして・・・



とべ動物園にいるハヤト！！  
フレンジが出来てきました！！！！

円山動物園とオランウータンを  
応援してくださっている皆様へ

レンボー・レイトが、新年を新施設で迎えることができたことを幸いに存じます。

残るは弟路郎。しっかり準備していき  
たいと思います。

最後に、当園へのご理解、ご協力と  
オランウータンたちへの多くのご支援に  
改めて心より感謝申し上げます。

本年もよろしく願いいたします。

(李)